



かぐらづとめの理を受けて

教祖百四十年祭



立教188年 元旦祭

真 朋

発行所
天理教芦津大教会
〒546-0003
大阪市東住吉区
今川8丁目6番32号
電話 06 (6702) 1980
FAX 06 (6700) 1854
Eメール shinmei@ashitsu.or.jp
印刷所 天理時報社

まこと
実に、かぐらづとめは、人間創造の元を慕
うて、その喜びを今に復^かえし、親神の豊か
な恵をたたえ、心を一つに合せて、その守
護を祈念するつとめである。『天理教教典』

かぐらづとめは、親神様が人間を創造されたときの御守護をぢばにおいて再現するものです。何もない泥海の中から人間を創造された親神様のお力をもつて、今度は人間世界を生きながらにして生まれ替わらせる、親神様がお望みになる陽気ぐらしの世界へと再創造するおつとめです。

かぐらづとめでは、十人のつとめ人衆がそれぞれの働きに応じて手を振り分けます。そしてお互いが支え合い、補い合い、活かし合う、一手一つの理想の姿を表されます。そこに世界中のたすけを願う私たちの心が結集するとき、親神様の人間創造時のお力、お働きが世界中にみなぎっていく。私たちの祈りと親神様の思いが一つに溶け合うことで、よろづたすけのおつとめが実現するのです。

各教会で勤める月々のおつとめも、私たちが毎日勤めるおつとめも、おぢばで勤められるかぐらづとめがあつてこそ御守護を頂ける。年祭活動仕上げの年、おぢばに帰って多くの仲間と共にかぐらづとめに参拝したすけ・たすかりの理を頂戴しましょう。

正面方加

アフリカには古くから「早く行きたければ1人で行け、遠くに行きたければみんなで行け」ということわざがあるそうだ。

私たちは教祖百四十年祭に向けて一人ひとりはもちろん懸命に歩んでおられることと
思う。

しかし、昨年の秋季大祭の真柱様のお話に、たくさんのおうぼくが一手一つに通らなければ教祖に安心していただけないとあつた。

教会長さん家族だけで頑張つてないだろうか。自分一人だけで歩んでないだろうか。どうか近くの教友に声を掛け、励まし合い、勇ませ合い、それこそようぼくというようぼく全員が手を取り合い、一手一つに歩んで、教祖がご安心くださる場所まで辿り着かせていただきたい。

そして年祭当日を、全員が嬉しい心で迎えることができ
ますように。

(庄)

《立教187年12月月次祭 挨拶》

年祭活動を振り返り

仕上げる年に臨む

大教会長 井筒梅夫

今日は師走のせわしい中、また大変寒い折柄、こうして本年納めの月次祭にご参拝いただき、只今滞りなく勇んで勤めさせていいただきましたことは、誠にありがたい次第です。また、この一年、年祭活動三年千日の2年目の年として、時句の道の上にご丹精いただきました、誠に苦勞様でした。

今年も終わりに近づいていますが、これまでの年祭活動を簡単に振り返ってみたいと思います。大教会として「おつとめの勤修とおさづけの取り次ぎ」、また、「人をたすけ、人を育てる（おたすけと丹精）」、そして「ひのきしんと伏せ込み」、この3つを三年千日の活動の指針としました。この3つの項目は、どれをとっても特別なものではなく、どれもがようぼくにとって基本的な当たり前の務めです。しかし、当たり前というものは、当たり前過ぎて、ついうつかりすることがあります。お互いにたすけ一条の基本に立ち返って、当たり前のことを当たり前に行い、ようぼくの役目を勇んで果たそうとの思いで、これを三年千日の活動の指針に掲げたわけです。

そして、1年目の目標として信仰実践に動くことを申し合わせ、年祭活動をスタートしました。この年の5月にコロナが5類

感染症に分類されて、徐々に教内の活動を元に復する動きが出てきました。その中でも、理の親と子の交流や往来ができる動きが出てきたのが、日常の信仰活動の最もうれしいことの一つです。それまでの、身上になってもおたすけに行けない、講社祭に運べない、おちば帰りや教会の参拝も控えなければならない、といった状況が徐々に解消されていきました。これはうれしいことでした。

この1年目の動きを具体的な形に表わそうと、「一教会二名以上の初席者を御守護頂こう」を目標に掲げて、年祭活動2年目の今年を迎えました。その成果として、正確な数はまだ出ていませんが、200名に近づくような初席者ができて、教祖百三十年祭の年の169名を超える御守護を頂いています。これも、皆さん方が周囲に心を配り、声を掛けて、にをいがけ、おたすけに励んでくださったおかげです。

そして来年は、「一教会一名以上の修養科生を御守護頂こう」を目標として、仕上げる年に臨ませていただきます。

お道の信仰は、親神様の思召にお応えさせていただく信仰です。親神様の思召は、かわいい子どもである世界の人々をたすけて、陽気ぐらしを味わわせてやりたいという親心が思召の根本で、そのために大勢のようぼくが必要だと思召されるのです。初席は、ようぼくになるための入り口であり、修養科は実動ようぼくへの成人の場と言えます。特に修養科は、おちばでたすけていただき、おちばで成人させていただき、おちばで生まれ変わらせていただき、他にはない貴重な3カ月です。つまり、初席者も修養科生も、親神様の切なる御心にお応えさせていただくための取り組みであ

ることを確認しておきたいと思ひます。

親神様の思召にお応えすることは、教祖の道具衆であるようなくの果たす役目であることを自覚して、2 年目の初席者の丹精もおろそかにすることなく、しっかりと継続しながら修養科生の御守護を頂けるように、ここに心を揃えて3 年目をつとめさせていただきますと思ひます。

さらに、ご本部から「各教会の目標と年頭の心定め」の完遂と「おぢばがえりの推進」の2 つを、年祭活動3 年目の全教の動きとしたいと発表がありました。お互い一人ひとり、新しい年を迎えるに当たって一年間の心定めをしたいと思います、大教会も各教会も年頭の心定めをもつて一年をスタートするので。教会の心定めは単なる数の目標ではありません。今年はこのまでの御守護を頂けるよう、しっかりとつとめさせていただきますという、おたすけと丹精の誓いです。このおたすけと丹精の上に御守護いただくために、このような心でこのようにつとめさせていただきますと、心を定めることが肝心です。

来年は年祭活動仕上げる年です。どうかお互いに、この一年を一生懸命に全力でつとめ切つて、三年千日を仕上げてさせていただきますとの心を固く定めて、年祭活動3 年目に臨ませていただきます。皆さん方には、三年千日の2 年目を真心を込めてご丹精いただきます、大変ご苦労様でした。また、ありがとうございます。

明るく年も教祖にお喜びいただけるよう、一歩成人、一歩前進を誓い合つて、勇んで時旬の道を歩ませていただきますと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

(要約)

立教百八十七年 十二月 月次祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教芦津大教会長井筒梅夫、慎んで申し上げます。

親神様の深き親心と篤き御守護にお護り頂きまして、日々を結構にお連れ通り頂き、成人の歩み恙なくお導き頂きます中に、今日は早くも十二月の月次祭を勤める日柄と相成りました。思い返せば今年は、年祭活動二年目の旬に相応しく心を定めて、「一教会二名以上の初席者の御守護」を活動目標に掲げて、各々の持ち場立場で真実を尽くしてたすけ一条に努めてまいりました。親神様の目からはまだまだお目だなく、成果も思うにまかせず数々の至らぬ処がございましたが、その中にも大いなる親心に日々々々お連れ通り下され、今年もここまでお導き頂きました言い尽くせぬ御慈愛の程は、思えば誠にかたじけなく勿体ない極みでございます。

私共一同は、明けて年祭活動仕上げるの年を迎えるに当たり、お姿を隠してまで成人を促された教祖年祭の元一日の親心にどうもお応えできるよう、一層一段の成人を誓つて、たすけ一条の実動と丹精を積み重ね、心勇んで年祭活動を勤め切らせて頂く決心でございます。茲に過ぎし一年を顧みて、届かぬ私共を抱え下さる親心にお礼申し上げ、今後の弛むことなきおたすけと丹精の実践をお誓い申し上げて、只今より役目にあずかる者一同心を揃え、座りづとめ、陽気てをどりを勇んで勤めて、本年納めの月次祭を執り行わせて頂きます。

御前には年の瀬も厭わず参らせて頂きました芦津の道の子達が、同じ思いにお礼申し上げ、心の成人をお誓い申し上げる真実の状をお受け取り下さいます。親神様にもお勇み下さり、願う誠の心に自由の御守護を賜り、私共一人ひとりを世界たすけのようほくとしてお使い頂きまして、陽気ぐらしの世界への足取りを一歩一歩着実に進ませて頂けますようお願い申し上げます。

茲に納めの月次祭に当たり、重ねて今年一年のお礼を申し上げ、併せて来年も変わりなくお連れ通り下さいますよう、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《立教187年12月月次祭 神殿講話》

心のほこりを払い おたすけに励もう

役員 奥田眞治

今年は、元日早々に能登半島で大地震が起こり、大阪でもかなりの揺れを感じました。1月4日の年頭のご挨拶で真柱様は、「地震について言えば、おふでさきでは、

半島大地震に続いて、2日には羽田空港で飛行機事故が発生しました。このまま進んでいくと今年はどうなるのだろうと誰しも思ったことと思います。

天災を月日の残念、立腹と仰せられているのはご存じのところでしょう。それは、教祖の教えを信じ、教祖の道を通らせていただくお互いの、心の成人の鈍さに対する厳しいお仕込みであると思うのです。

また、夏は記録的な猛暑の長期化、そして局地的大雨や線状降水帯による豪雨が起こり、秋雨前線が活発化して、9月にまたもや能登方面で豪雨災害が起こりました。

さらに、8月8日の宮崎県日向灘地震は、南海トラフ地震臨時情報として、「巨大地震に対する注意」が呼びかけられました。その1週間で、国民の防災に対する意識が高まり、避難グッズや店頭食料、特にお米をたくさん買う人が増えて、スーパーの店頭からお米がなくなり、「令和の米騒動」という社会問題になりました。その

結果、お米の値段が1.5倍に跳ね上がってしまいました。地震が起こるだけで世の中は変わってしまうんだなと思い知らされた年でした。

年祭活動の私たちの務め

抜き差しならないような旬が来ているのに、ついうつかりと暮らしている人が多いというその状況の中で、親神様の残念なお思いを真柱様がお一人で受けられて、私共の間に入ってくださっているように思えるのです。おそらく真柱様は、私たち信仰者の成人の行き届かないところを、毎日親神様、教祖に一心にお詫びをしてくださっているように思うのです。

厳しい叱咤激励も親心あつてのことであり、そのおかげでいろいろな物事が大難を小難に代えて見せてくださっているように思います。どんな節でも親心を感じたなら、心が晴れますし、前に進もうという勇気が出るもので、厳しいお仕込みも同じです。お仕込みくださる方の優しさや、お思いくださる心が理解できれば、ありがた

いと思えます。今の状況から一歩前進、成人させていただくためには、やはり真柱様のお言葉を心に刻んで、しっかりと応えさせていただかなければ申し訳ない。まずそのためにはどのように通らせていただいたらよいのでしょうか。大教会長様は「私たちがこれからやることは、真柱様のこのお声にお応えして、もっともつと大勢のようほくが教祖年祭に心を向けて年祭を目指してとにかく動き働かせていただいて、年祭活動に一生懸命に取り組むことです」とお話しくださいました。とにかく動き働かせていただいて、一生懸命に取り組ませていただくことが私たちの務めです。

いんねんの自覚とたんのう

現在、天理教青年会では「心を澄ます毎日。」を基本方針として活動に励んでおられますが、本当に心を澄ますことはお互い大切なことだと思います。心を澄ますということは、心にほこりを付けないように努力することです。



高弟の高井猶吉先生が、『教祖より聞きし話』の中で、こう記されています。教祖は、「ほこりとほこりと寄る。そして互いに果てる（死ぬこと）」と仰いました。これくらい深刻で厳肅なことはないのです。日々にお互いはどんな日もあると思います。互いに腹を立てたり、立てさせたり、またうらんだり、うらまれたり、心の中は濁っている状態で、人に腹を立てさせるのもほこりです。腹を立てるのもほこりです。それが互いに果てるというのです。

神様は、ほこりな者と、そうでない善人とは決して一緒になさらない。善い人ねんの者と悪い人ねんの者を寄せたら、善に対して親（神）はすまぬと仰います。だから、日々寄り合うものの一家は、同じ人ねんの者です。誰が悪い、誰が良いの隔てはなく、故に「一人の悪いは家内中の悪い」です。

また、「神様は、大難は小難、小難は無難にしてやるのやで。知らずにしたことやから無理はない。心改めて通るなら、親が手伝う。百人苦しめてある人でも、十人か二十人喜ばしたら、後は神がたすける。十人倒した者でも、二、三人を起こしたら、残り七、八人までは親がたすける」そうした温かい親心から、大難は小難として現れて来るのやから、日々はいかなることが現れても、大きく現れて来るところも、誰にでもいつでも小さく出してもらっている」。

私が納消できるようにと心を碎き、たすけ一条の道に励まれたのだと思案をいたします。

おちば、大教会での御守護

私の教会の信者さんで、Oさんという方がおられます。その方は、数年ほど前から得体の知れない身体の痛みに襲われ、みぞおちやお腹が痛かったり、胸の辺りや下腹部が痛かったりと、いろいろな部分痛み出しました。長かったら半年から数年間も続きました。四六時中痛いわけではないのですが、やはり痛がるので病院で診てもらい、検査してもらいますがどこも異常がないのです。ここ1年の間は特に口の中が痛み出し、痛みを我慢して食事をしていました。

「教祖は、見るも人ねん、聞くも人ねん」とおっしゃった。人ねんのないことは現れない。前生々々なり、あるいは十五歳からこちらへつけて来たほこり（人ねん）、必ず旬が来れば現れて来る。これはどうしてもよける（避ける）ことできん。よけることができる。出で来ればいやおうなしである」。

「教祖は、見るも人ねん、聞くも人ねん」とおっしゃった。人ねんのないことは現れない。前生々々なり、あるいは十五歳からこちらへつけて来たほこり（人ねん）、必ず旬が来れば現れて来る。これはどうしてもよける（避ける）ことできん。よけることができる。出で来ればいやおうなしである」。

私たちの初代様や先人の先生方は、この道の理を聞き分けられて、心のほこりによって積んだ人ねんが納消できるようにと心を碎き、たすけ一条の道に励まれたのだと思案をいたします。

おちば、大教会での御守護

私の教会の信者さんで、Oさんという方がおられます。その方は、数年ほど前から得体の知れない身体の痛みに襲われ、みぞおちやお腹が痛かったり、胸の辺りや下腹部が痛かったりと、いろいろな部分痛み出しました。長かったら半年から数年間も続きました。四六時中痛いわけではないのですが、やはり痛がるので病院で診てもらい、検査してもらいますがどこも異常がないのです。ここ1年の間は特に口の中が痛み出し、痛みを我慢して食事をしていました。

ちばへ帰らせていただいて、ゆったりとした気持ちになって、自分のできるひのきしんをさせてもらったらどうか」とお声を掛けて下さいました。

〇さん一人では無理だろうと思いい、家内が付き添って今年の5月頃から「おちばへの伏せ込みひのきしん」を月に数回させていたでいていました。また、一緒ににいがけに出かけて、数件でもいいからとピンポンを押して回つたりと、御守護の道を探していました。その矢先、ありがたい不思議な御守護を頂いたのです。

実は、11月24日の「婦人会芦津支部委員長講習会」に声を掛けると、喜んで参加してくれました。〇さんは、その日は朝から年子奥様に背中をさすっていただきながら、「大丈夫やで。御守護をもらうねんで」と声を掛けていただきました。また、大教会長様、ふみ子奥様にも声を掛けてもらい、中山先生の講話も聞かせてもらって、心の中は勇んできて「今日こそ御守護頂きたいな」という気持ちで

いっぱいだったそうです。

食堂に降りたとき、あるお婆さんがしんどそうにしていたのを見かけて、どちらからともなく会話をししてマッサージを施したそうです。「あんたのお陰で随分と楽になったよ。ありがとう」と嬉しそうにお礼を言う姿に〇さんは心から喜びを感じました。

その夜、いつも通り御供さんを頂いて休み、朝起きたら不思議なことに、あの口の中の痛みがすっかりとしてどうもない。1年ぶりにご飯も美味しく食べられたのです。そして、私の教会に電話をくれまして、早速お礼の参拝に来てくださり、事の一部始終を話してくれました。今まで何度も神様の不思議な御守護を頂いていたことに気付いたと言ってくれました。

実は〇さんは2歳の頃、言葉が出ない、ひと言も喋れない子どもでした。お医者さんに診てもらった、「この子は一生喋ることはできないですよ」という見立てでした。それで、教会からの勧めで、母親は2歳の〇さんを連れて修養科

へ入科しました。修養科生活も3カ月目に入りましたが、まだまだ御守護が頂けない状態でした。ある日、修養科から詰所への帰り道、公衆電話から自分の親に電話を入れていたときです。「まだ、この子話がでけへんねん」と親に言っていたら、冬空から雪が降ってきた、思わず〇さんは「あ、ゆきや、ゆきや」とつぶやいたのです。今、話がでけへんねんと言っていた矢先、「今喋った。ゆきやつて言うた。言葉が出た」と、大喜びです。

〇さんはこうした2歳のときの記憶が甦り、こんな御守護、あんな御守護を頂いたと、神様の御守護が分かるようになってくれました。おちばで講習を受けたときも、長いこと腕が上がらなかったのに、蛍光灯の電球を交換するひのきしんをしたとき、すーっと腕が上がったこともありました。

おちば、親に繋がること

この旬に、こんな結構な御守護を頂きました。御恩報じはこれからですが、これはやはり大教会長

様、奥様から声を掛けていただいたり、おちばや教会に繋がって一生懸命通ってひのきしんの実行に励んでいたからだと思っています。

親の声を素直に聞かせていたでいて実行する。おちば、親に繋がることは、本当に大切なことだと思わせていただきます。

来年は、おちばに心を寄せ、足を運び、真実を尽くし伏せ込む。おちばで成人し、おちばでたすけていただく。おちば帰り、おちばへの真実の伏せ込みをさせていたでく旬であります。しっかりと理づくりをさせていたでいて、修養科生の御守護を頂戴し、おちばへ人を連れて帰らせていただけるよう、そして、それぞれの教会の目標の達成、心定めの完遂が仕上げる年の大きな目標です。

御存命の教祖にご安心いただけるよう、勇み心を奮い起こして、年祭活動仕上げの年を一生懸命に取り組んで実動し、教祖百四十年祭のその日を嬉しい心で迎えさせていただけよう、互いに努めたいと思います。

十二月次祭 祭典役割

十二月次祭 祭典役割																		
祭主			扨者		扨者		てをどり		地方		ちやんぼん 拍子木			太鼓			小鼓	
大教会長		岩切正教		山本義範		座りつとめ		大教会長 井筒文夫 川畑澄博 会長夫人 前会長夫人 奥田富美子		湯川正罔 竹内義忠 瀧本庄司		岩切正教 奥田正徳 今川政治 奥田眞治 守田清一 岩切正義		瀧本基志枝 今川和子 望月恵美				
指図方		賛者		賛者		前		山本さだえ 松森明美 松本さだえ 岡本久昭 立花善三 加世田洋		茂内浩 木村真次 中村俊和		石川健郎 山本義範 西本義之 立花善三 河端芳雄 浜田宣郎		梶川文子 梶川りよ子 吉田幸子				
瀧本眞二郎		樋川泰士		宗我道明		後半		石川千晶 奥田千晶 岩切治代 望月慶太 村田光伸 花岡忠和		川畑正博 川和人 梶川芳征		吉田裕樹 瀧本亘 今川聖一 湯川正信 新居里実 山本繁正		中村寿々代 河合ふみ子 瀧本美奈				
守田清一		竹内義忠		加世田洋		中立村俊和		新里実 西本興正 今川聖一 村田光伸		湯川正信 吉田裕樹 川畑博紀		瀧本亘 望月和人 梶川慶太		山本繁正 齊藤吉生 山下慎一		元木		

《婦人会荳津支部委員長講習会における講話》——前篇——

一言話が苦手な人へ 加えるエッセンス

本部長 中山慶純先生

本日は、婦人会荳津支部委員長講習会に大勢お集まりいただき、誠にご苦勞様でございます。

一言話はひのきしん

昨年10月26日、真柱様は「もつとたくさんのおぼくが年祭に心を向け、年祭へ向かっての動きに取り組むように働きかけ、丹精を続けなければ、教祖に安心してはいただけないと思う」とおっしゃいました。ですから今日は、働きかけと丹精についてお話をしたいと思います。

多くのようぼくは、つとめ、さづけ、つくし、運び、ひのきしん。ほこりを払ったり、いんねんを切ろう、たんのうしよう、と、そういうことはよく知っている。そして、頑張っている人もかなりある。

ただ一つ心配なことがある。おつとめの後半下りに入ったら最初の地歌に何が出てきますか？

七下り目の一つ、

ひとことはなしハひのきしん
にほひばかりをかけておく
です。このひのきしんが十分できていない。

一言話は、ひのきしんだよ、です。にをいがけをして、この人を必ずようぼくに育てなさいとおっしゃっているわけではないのです。にをいをさつとかけたらいい、とおっしゃっているのです。ですが、なぜ皆さんは、一言話が苦手なのでしょうか。

私が会長になる前、昭和50年に母親が初代で教会をつくった。お道が伸びている頃で、信者さんが次々と新しい人を教会に連れてき

た。そして、「この人、病氣なんです」と、うちの母親のところに連れて来るわけです。お話はできないけれど、新しい人を連れて来る。それで母が一生懸命お話をして、それから信仰し始めて、別席を運ぶようになる。

こういう人が、今は少ないですね。だからこういう方々が、増えてこないのだめなのです。なぜ増えないのかというと、「何をしゃべっているのか分からない」のです。「そういう人は、教会へお連れしたらいんだよ」と言うのですが、信者さんたちに、それをする勇氣がないわけです。

では、その自信と勇氣はどうやってつけてあげるか。これは「何を話しているのか分からないなら、この話をしなさい」とヒントをあげることが必要です。

「自分がたすかった話をしたい」と教祖もおっしゃる。けれども「私はこの間、こんな病氣がありました」と、それだけで終わってしまい、後が続かない。「なぜ治ったか」「誰がどう働いてくださ

ったか」「病氣の元は何だったか」という話が充分できていない。

そこで今日は、「私でもおたすけ人になれるでしょうか」という方もいらつしやると思うので、そういう悩めるようぼくに、自信と勇氣を持ってもらうことこそ、最大の丹精であると思うのです。だから今は、多くのようぼくに自信と勇氣を持っていたくような丹精をすることが大切です。

家のムードを良くする

私は「徹子の部屋」というテレビ番組が好きで見ているのですが、数年前に毒蝮三太夫さんが出演されました。徹子さんが「私はよその家へ訪問するときに、手土産が何がいいか悩む」と言うと、毒蝮さんは、「私は、甘い物や辛い物は身体に影響がある。糖尿の人には具合が悪い。なので、私はこの家が明るく楽しくなる話を持っていこうと思っています」とおっしゃった。私はそれが気に入って、それ以降、私も真似をしています。その家のムードがよくなる話とい

うのは、笑い話ですね。「笑ってくださるには、どういう話がいいか」と考えるようになると、笑いの話を探すようになる。

皆さんもご存じのように、笑ったら、それだけで十分たすかっているのです。村上和雄先生がされていた「NK細胞」の話は有名ですよね。さらに、笑うとドーパミン、セロトニン、オキシトシンなど、いろいろな幸せホルモンが溢れてくる。そうすると、病気になるにくくなり、認知症もぐっと減る。これはセロトニンが効くそうです。

相手を納得させるには、お道の

話だけではなくて、プラスお医者さんの話や、科学者の話を少し添えてあげるだけで、信じてもらえる可能性が高いのです。

だからお道の話を一生懸命勉強するだけでなく、それと同じように笑いの話や、ためになる話。そこに、この家が将来伸び栄える話や、病人には何とか御守護いただける可能性のある話をしないといけない。おたすけの話ですよね。これらを一生懸命勉強しなくてはなりません。

そして、お医者さんが知らない話を、ようぼくは知っていなければなりません。教祖はたすかる方法をたくさん説いておられます。

ある信者さんが、「この間、占いで見てもらったら、あなたは結婚の縁がない。この間、お見合いたでしょう。それを断ったから、もう結婚はできない」と、占い師に言われました、と言って泣きついてきました。「心配することはないよ。教祖が教えてくださるには、男の道と女の道があって、女の道をしっかりマスターしたら、

必ずご縁がある」と言いました。

お道は、運命を切り替える方法を教えるのです。占い師もお医者さんも、そういうことは言わない。それを超える力を、ようぼくは神様からお与えいただいているのです。これをしっかりと身に付けて、人様にお取り次ぎしましょう。こういう話をどんどん取り次ぐと、自信になる。自分が話を聞いて、そのときは刺激を受けて覚えていられるけれど、すぐに忘れる。だから誰かにすぐその話を取り次ぐのです。話を出して、また入れてを繰り返していくと、覚えていくのです。こうして、おたすけ人のようぼくが誕生していくのです。

昼の神様、夜の神様

あるお年寄りが入院したので、見舞いに行くと、不足ばかり言うのです。「ご飯がおいしくない、看護師さんが不親切だ」とか言ってくるわけです。私もたまらなくなつて帰ろうと思うのですが、帰るときに一言声を掛けるのです。この方は信仰をしていない方です

が、「大変なんだね。だけど今日一日、そんな不足ばかりじゃなくて、1つぐらい良かったなということはないの？ 神様には昼の神様と夜の神様とがあって、夜の神様に『今日はこんな良いことがあります』と一言申し上げておやすみになったらいよ」と言った。その方はとても素直な人で、例えば1つぐらい良いこともあるわけです。好きなおかずが出たとか、看護師さんが優しくしたとか、うれしかったことを申し上げて、やすむようにしたそうです。

これが続けると、10日後に大事な検査があつて、非常にいい数値が出たのです。これはきつとお礼のおかげだろうなと、とても喜びました。

そして、この方には同じ部屋で入院している人がいたのですが、隣の人に「こういうことがあったよ。あんたもやってみたら」と勧めていたら、隣の方もやりだしたのです。そうすると、2人共どんな良くなって、10日後には退院になったのです。



その後、その方に会ったとき、「あんたに言われた、夜にお礼の言葉を一言言ってから寝なさい、と言ってたけど良かったわ。ありがとね。ところで、なんでこんな良くなるんですか」と尋ねられました。ここでちゃんと答えられるかどうか、ここが最も大切なのです。

夜の働きの理というのは、昼間と関係が深いわけです。人間は昼間にいろいろな心を使う。食べる物でも、がんの元になる物も食べている。

だから、昼間というのは、例えば、心遣いや通り方など、将来に良くないことになってしまうわけです。それを夜の神様にすつと消してもらえない人と、半分しか消してもらえない人があるのです。

昼間に3千のがん細胞が発生しているのですが、夜寝ている間にすつと消してくださるから、がんにならないわけです。これは夜の神様の働きです。これが消えなくなるから、がんになる。

では、消えない元はどこにある

のか。これは神様が握っているのです。昼間の生き方、通り方。これが親の目に適っているか、適っていないかで大違いなのです。

十全の守護の理を感じる

では、「昼間、どう通ったらいいんですか」と尋ねられました。そこで出てくるのが、朝づとめです。

みんな「おつとめが大事」と言いますが、なぜおつとめが大事なのか。それは、あらゆるものの基本がここにあるからです。

例えば朝づとめに行つて、おつとめをすると、「あしきをはらうてたすけたまへ てんりわうのみこと」と21回続けます。「てんりわうのみこと」では、手のひらを上に向けて、受ける形をしますが、この受けたときに、手の中に神様の働きの理が入ることをイメージするので。

21回という数の悟り方の一つに、 $10 + 10 + 1$ という悟り方があります。それは親神様の「十全の守護の理」。

最初は、くにとこたちのみこと

様のお働きを感じる。「てんりわうのみこと」と手を振ったとき、

手の上に水がたつぷり入るイメージです。神様の働きの理を目の前で感じる。「ああ、ここになみな

みと水が入ってるなあ、ありがたいな」と感じる。私たちの身体の70%は水です。水分が身体のあち

こちまで流れてくれるから、人間は生きていくことができる。その水を目の前に感じることです。

2つ目はをまたりのみこと様の温み。温いものが手に乗る。

私はお湯が一番いいかなと思います。「あつたかいな。ああ、温みの神様だ」と手から感じる。目で見て、身体で感じるから、どんな染みて、親神様と一体になれるありがたさが深く感じられるようになります。

3番目はくにごづちのみこと様の皮つなぎです。分かりやすいのはお肉だと思えます。手に200gのビフテキを乗せてごらんください。美味しそうですよ。こうやって「皮つなぎは肉だ」と感じる。

4番目は月よみのみこと様の骨

が出てくる。骨粗しょう症や骨折をしている人は、おつとめをしながら「骨はありがたいな」と、骨の働きにしっかりとすがる気になります。

5番目はくもよみのみこと様。覚えやすいのは、肉と骨。これを食べたとしたら、消化器官に入る。だから5番目は消化器。

「ありがたい、美味しい」と言ったら、それがすつと身に付いて、かすは出て行く。出が悪いときは入るときを振り返ってください。ごはんのとき、まずいなと不足をしなかったか。美味しい、ありがたいで通っていると、身体からすつと喜びが出ていく。

6番目は、かしこねのみこと様の呼吸器。肺などの呼吸器関係が手に乗る。こうするとすつと覚えられます。

7番目は、たいしよく天のみこと様のはさみ。病の根を切り、いんねんの根を切ってくださいのはさみです。たいしよく天のみこと様が日夜働いてくださるから、病気になるかけてもそれを切つて

くださる。こんな嬉しいことはない。だからしつかり感謝する。

8番目は、をふとのべのみこと様の引き出しです。引っ張り出すのだから、爪が伸びる、髪が伸びる、皮膚も新陳代謝して、ありがたい。

また引き出しは、子供を成長させることにも繋がる。子供には学力を考えると考える人もいるけれど、大切なポイントは「幸せになる力をつけてあるかどうか」という幸福力です。

いくら学力をつけて、いい会社に入っても、仲間とうまくやれない、上司にはほろくそ言われる、それでせっかく入った一流企業をすぐに辞めてしまう、という人がたくさんいるのです。これは子供に学力がついても、幸せになる力がついていないからです。

幸福力をつける

何が大切かというと、3つあります。会社就職するとき、社長さんは、その人のどこを見るのでしょうか。「この人間は気が利く

子なのか」これが1つ。それから「鼻がきくかどうか」「これがもう1つ。そして「声がきく」肥やし」です。この3つがあるかないかで判断します。

いわゆる気が利くというのが、まず1つ。気が利かない子は長続きしません。上司には認められないうし、友達とも喧嘩をしてしまう。そういう気遣いのできる子供を育てなければなりません。

そして「鼻がきく」というのは、将来を見る目のことです。これからこの株が伸びるとか、ここはこういう開発をしたらどうか、など将来を見る目があること。

それから「声がきく」というのは、上からの声を素直に聞くかどうか、ということ。上司からの仕込みなど、いろいろなことを言うてくるが、それに反発するか、素直に聞くかどうかを見ているのです。せっかくこの人を育てようと思っ

て育てようと思っ

て育てようと思っ

て育てようと思っ

て育てようと思っ

そういう姿を、親神様が御覧になつて、我が子を守ってもらえる。子供は神様に守ってもらうことを考えるのです。

神様に守ってもらおうと思えば火水風が大切です。特に水は大切に使う。顔を洗うとき、歯を磨くとき、人によって水の使う量が違います。この量が少なければ少ないほどいいのです。水を飲んだときも「ありがたいな」と思う。このありがたい喜びの心が水に伝わり、親神様に伝わる。だから、子供には「水を大切にするんだよ」としつかり伝えるのです。

9、10番目は、いざなぎのみこと様、いざなみのみこと様。これは男性ホルモン、女性ホルモンで、子供をお与えいただくために必要です。だから子供を与えていた

きたい人は、この9番、10番にお願いをするのです。身体は男性ホルモン、女性ホルモンのバランスです。

こういうことを考えながらおつとめを勤めて、十分になるのです。

部内一斉巡教

(3月～6月実施)

巡教員、巡教先は次の通り。

大教会長Ⅱ徳修・北地・芦島
鶴・西浜・紀志・
日幡・菊田町・芦
美屋・芦眞勇
井筒文夫Ⅱ島浜・大正町・東
大屋・島大・鎮名
湯川正園Ⅱ三好・上郡・脇町
・徳三
岩切正教Ⅱ芦明眞・西ノ庄・
吉池・薩州
川畑澄博Ⅱ加津佐・有家・末
宝・島長・大王
奥田眞治Ⅱ畦川・島原港・島
百合・鷺洲・浪華浦
竹内義忠Ⅱ北勝・芦勝・東俱
・恵庭・太美
山本義範Ⅱ春日出町・昭心・
芦日眞・津泉・津勝
山田道弘Ⅱ東祖谷・祖谷川・
善徳・紀野本・玉成
加世田洋Ⅱ海南・明慈・明高
・福田荘
岩切正義Ⅱ大桐・大崎原・芦

瀧本庄司Ⅱ東天童・泉砂川・
和草・東鎮
吉田裕和Ⅱ東迎・順世・晝間
・井内谷
梶川和隆Ⅱ大笠利・芦南・名
瀬港・芦金久
立花善三Ⅱ吹櫻・輝浪・真大
奄・鎮恵
西本義之Ⅱ芦名・山城谷・徳
上・御谷・津阪
葭内 浩Ⅱ毛見・紀南・富島
・白野江・神甲
浜田宣郎Ⅱ芦船・立治・東向
・東布施
木村真次Ⅱ矢部川・鶴洋・島
栖・芦門
中村俊和Ⅱ高瀬・脇西・東脇
町・和阪・芦山都
石川健郎Ⅱ青港・南向・吹上
濱・周宝
樋川泰士Ⅱ畦浜・奄美笠・大
朝・芦大熊
奥田正儀Ⅱ吹田・紀内・福・
芦姫
河合善洋Ⅱ津浪・芦玉・大瀧
・日名南
花岡忠和Ⅱ加島港・海部川・

今川聖一Ⅱ岩野邊・島新・日
台・津雲・津阪部
湯川正信Ⅱ東淀川・上池・白
地
川畑正博Ⅱ渭山・冷水・有田
港・昭大
榎 康紀Ⅱ本京櫻・小松ヶ原
・琉宮・芦沖・眞一
梶川和人Ⅱ大関門・二名・稲
津・笠戸
榎理恵子Ⅱ豊崎・神輝誠・本
伊丹
望月恵美Ⅱ東大木・丸芳・笠
松
宗我邦代Ⅱ照南・南國・芦出
水
岩切孝子Ⅱ真大富・理風・大
眞永
加世田陽子Ⅱ上有明・甲山・
四ツ海

元旦祭執行

1月1日、立教188年の新春
を迎え元旦祭が執行された。
年の明けを待ちかねて
参集した芦津の理の子供たち

と共に、心ありがたく今年の
初づとめを勤めた。

午前零時、年明けと同時に
大教会長が開扉を行い、続い
て献饌。午前1時より厳かに
祭儀式が行われ、大教会長が
祭文を奏上された。「仕上げ
の年に相応しい心を定めて、
修養科生の丹精と心定めの完
遂の御守護を頂けるよう一手
一つに心勇んで勤め切らせて
いただきます」と、新年にあ
たつての決意を述べられた。

座りづとめ、十二下りの陽
気てをどりを勤めた後、大教
会長が参拝者に対し、新年の
挨拶。「今年は年祭活動仕上
げの年。これまでの2年間を
お互い振り返り、届かないと
ころや至らないところを補い、
継ぎ足しながら、三年千日を
しっかりと仕上げて、今年一
年、時旬の歩みを心勇んで一
生懸命に勤め抜かせていただ
きたい」と、新しい年の抱負
を述べられた。

餅つきひのきしん

12月27日、詰所で餅つきひ
のきしんが行われた。

午前8時より、一つが1斗
の大きさの鏡餅を17個つきあ
げ、ご本部にお供えさせてい
ただいた。正月三が日にお供
えされた鏡餅は細かく切り分
けられ、1月5日からの「お
節会」でお雑煮として、帰参
した信者に振る舞われた。

ラグビー部受け入れ

天理高校ラグビー部は、年
末より開催された全国高校ラ
グビー大会に3年連続で出場
元日の3回戦に進出したが、
接戦の末、惜敗。しかし伝統
の低いタックルと展開ラグビ
ーで多くの観客を沸かせた。

大教会は26日より大会中の
宿舎として、選手、スタッフ
らを受け入れ、世話取りにあ
たった。期間中、大教会在住
者が、宿泊、食事、入浴など
の面で精いっぱい真心を尽
した。

修養科と修えて

《第99期》

不便だけど不幸じゃない

山城谷分教会

林 理美 32歳

私は聴覚障害者です。生まれたときから耳が聞こえませんが、今は補聴器を付けていますが、私がこうして声を出してしゃべることができるのは、小さい頃から親と一緒に訓練してきたおかげです。

私が耳が聞こえないと分かったとき、両親は「普通の子供と同じように育てて、いろいろなことを体験させてあげよう」と決めたそうです。

それからスイミングスクールやガールスカウトなどを体験したおかげでいろいろな人とコミュニケーションする方法を学ぶことができました。

どういった相手の言っていることが分かるかな？ 私の気持ちがあまく伝わる方法は？ などといういろと経験

を積んだおかげで、今は読唇術という、相手の口の動きを読み取って会話ができるようになりました。

そういう努力と経験のおかげで少年ひのきしん隊や学生生徒修養会にも参加すること



ができ、同じ組や班になった人たちと一緒にコミュニケーションの方法を考えてくれて、活動を楽しめました。両親は私がやりたいことを「耳が聞こえないから無理」とか言わずにチャレンジさせてくれたおかげで私の世界は広がっていききました。両親にはすごく感謝しています。

知らない人からは「耳が聞こえないの？ 大変だね」とか、「かわいそうに」とか言われたこともあります。確か

に聞こえないことは不便ですが大変だと思ったことはありません。音のない世界が私にとって当たり前からです。

不便ということは不幸ということと同じではありません。耳は聞こえないけど目で見ること

はでき、行きたい所に行ける足もあります。病気もなく健康な身体がありがたみですごく感じるができます。さまざまな人たちのおかげ

で今まで生きてこれました。耳が聞こえないからこそ、違う世界を見ることが出来ます。手話という言語と出会い、聞こえていたら出会わなかった人たちとも出会うことができました。そしていつか修養科

に行きたいと思っていました。いろいろなことがあって、今回仕事を辞めることになり、社会福祉課の方から、この99期が手話通訳者が付いて聴覚

障害者を受け入れる期だと教えてもらい、私は両親と相談して母と共に志願しました。修養科に来てからは、それ

までの生活と比べてパターンがまったく違っていて、少し戸惑いもありましたが、朝起きて夜休むまでずっと天理教のことを学ぶことができ、教えがとても身近に感じられるようになりました。とても楽しく修養科生活を送らせていただき、クラスの皆さんが手話で「おはよう」と挨拶してくれて、とてもうれい

です。また、社会福祉課から手話通訳の皆さんが毎日来てくださったおかげで、授業も理解することができ、修養科を楽しむことができました。感謝の思いでいっぱい

です。私はこの身体を親神様から借りて生まれてきました。このことにも意味があるのではないかと思います。修養科で学んだことを今後の人生に生かして、私が見ている世界をもっと広げていきたいです。私だからこそ味わえる陽気ぐらしの世界を勇んで歩んでいきたいと思っています。

登壇参列《12月》

小坂 恵造(吹櫻)
松井 勉(豊崎)
吉田 誠(紀内)
元木 慎一(晝間)
齊藤 洋(徳三)
齊藤 愛子(高濑)
小川 正弘(加津佐)
花岡 忠和(日高)
加世田 洋(大島)
田中 敏行(芦玉)
西本 義之(尼崎)
樋川 泰士(甲邊)
奥田 眞治(豊野)
新居 里実(勝明)
日攄 勝郎(鎮名)
木村 真次(荳明德)

以上16名

教務部報

教養掛 (10〜12月)

主任

瀧本 庄司

教養掛

榎 康紀・吉田 誠

宗我 道明・小川 正弘

久米千壽子・瀧本 晶子

梶川りよ子

修養科第1000期修了

椿 裕子 (吹上浜)

前田三恵子 (吹上浜)

齊藤 容子 (芦 姫)

川畑 紀彦 (始 良)

川畑 沙織 (始 良)

加藤 聡 (丸 芳)

前田 聡 (奄美笠)

山下あやめ (芦山都)

立教187年12月27日

おさづけの理拝戴《11月》

立光 咲稀 (島 原)

内田のどか (名瀬港)

川上 佐和 (北 地)

川上 海地 (北 地)

細田 花帆 (芦 浪)

細田 陸人 (芦 浪)
林 理美 (山城谷)
加世田 汰 (大 島)

〈拝戴日順 8名〉

初席《11月》

〈4名〉日方

〈3名〉有家

〈1名〉東祖谷、大真永

〈順序運びより 9名〉

計 報

三好分教会五代会長

(吉野川部属)

仁尾元明さん

令和6年11月23日出直され

た。享年86歳。



告別式は、11月25日、宗我

道明・吉野川分教会長斎主の
もと、徳島県三好郡の葬祭場
で執り行われた。

昭和13年、父・仁尾仁一郎
三好分教会四代会長、母・登
紀子の長男として生まれ、昭
和35年おさづけの理拝戴、36
年天理大学国文学部卒業後、
天理中学校に奉職、同年教人
登録、42年青年会吉野川分会
委員長、47年道友社友、52年
三好分教会五代会長就任、58

年吉野川分教会役員、60年大
教会布教推進員、62年修養科
一期講師、平成2年大教会お
つとめ奉仕者、23年三好分教
会長辞職。大教会巡教員とし
ても務められた。

上級・吉野川分教会では役
員、会計として長年務められ、
神殿普請では中心となって御
用に励まれた。また徳島教区
では主事、三好東支部長を務
められ、教会長としても大勢
のようばく、信者を導き、丹
精に真実を尽くされた。

月例統計 (自令和6年1月1日〜至令和6年11月30日)

項 目	初	の	修	教
名 称 () 内教会数	席	おさづけ 理拝戴	養科修了	人
大 教 会 (1)	9	7	1	
大 教 会 (13)	8	1		1
東 津 (23)	8	2		
吉 野 川 (29)	11	5	2	1
島 原 (16)	21	4		2
日 方 (15)	16	4	2	
稗 島 (7)	7	1		
本 津 (2)	2	1		
日 高 (2)				
始 良 (5)	1			
津 和 (12)	3	3		
門 司 (6)	8			
當 別 (6)	2			1
大 島 (26)	24	10		2
沖 縄 (3)	2			
尼 崎 (2)	1		1	1
四 ツ 山 (5)	2	3		
大 冠 (2)				
島 下 (1)				
天 保 山 (3)				
青 木 (1)				
芦 浪 (1)	4	2		
甲 邊 (1)	1			
芦 華 (1)				
天 津 (1)				
入 江 (1)				
豊 野 (1)				
紀 周 (3)	12			
勝 明 (1)				
神 の 島 (1)		1		
兵庫眞洲 (1)	2			
芦 ノ 郷 (2)	2			
本 明 勇 (2)	1	1		
明 道 (1)	4			
芦 東 (1)				
和 鎮 (3)	3			
神 滝 本 (1)				
芦 明 徳 (1)	1			
眞明彰化 (2)	33	4		1
本 氣 (2)				
芦 明 照 (1)				
眞 伯 (1)				
合 計 (209)	188	49	6	9

あしっすフリングフェスタ

3/27(木)〜30(日) 一春の若年層育成強調期間一

27(木) HAPPY 徒歩団参

28(金) 春の学生おちばがえり

29(土) わかぎの集い

30(日) 第53回少年会芦津団総会